

北海道における新規農業参入希望者の研修に関する研究

共生基盤学専攻 共生農業資源経済学講座 農業経営学研究室 名徳知記

1. はじめに

農業への新規参入は、職業の一つとして以前から選択されている。北海道においては、農業への新規参入希望者の多くが自身の就農予定地域内での研修を経てから就農している。研修中に行われるプログラムの内容は無形の経営資源の効率的な継承等も含め、就農を目指す新規参入希望者にとっては非常に重要なものであるといえる。しかしながら、北海道における就農を前提とした研修(以下認定研修)では、一般農家で行われることが多いため、自身の経営の維持を優先する一般農家においては研修本来の目的である営農するための技術習得をすることが難しいと考えられる。そこで本論文では、北海道における認定研修がどのように行われているのか、その全体像を把握し、研修の特徴をタイプ分けすることで現在多く行われている一般農家における研修の位置づけを明らかにすることを課題とする。

2. 方法

調査方法は、事例分析ではわからない北海道における認定研修の全体像を把握するためアンケート調査を行った。アンケート調査は、北海道における農業への新規参入者、就農を目的に研修を行っている研修生、研修生を研修させているもしくは研修させていた農家、研修施設、市町村担い手センター等研修生の受け入れを行っている団体において実施した。また、これらの集計結果を研修受け入れ側と研修側に分け、それぞれの側から研修のタイプ分けをおこなった。その後、それぞれタイプ分けした両側をくみあわせ、研修全体のタイプとして分析を行った。

3. 結果と考察

研修全体のタイプを分析することにより、次のことが明らかとなった。まず、一般農家で研修をしたものを研修前の農業キャリアの有無で比べた場合、研修の満足度はキャリアがないものの方が高い傾向にあるが、研修中に習得した技術では就農時においてもキャリアありとの差は存在する結果となった。次に、一般農家での研修において経営作目が違う場合、携行資金の額や研修の満足度、作目ごとの技術の習得度合いに差が生じた。最後に、一般農家と公共的な研修農場での研修では、技術の習得度合いは一般農家での研修よりも低い傾向であるが、受け入れ側の対応や技術の習得においては一般農家よりも満足度は高いという結果となった。また、就農時においても公共的な研修農場での研修は、一般農家における研修に比べ就農時の問題が少ない傾向となった。

4. まとめ

本論文では、研修をタイプ分けすることによって次の二つを明らかにした。まず、一般農家における研修を、研修前の農業キャリアの有無、作目の違いで分析することにより、一般農家における研修自体が一つの研修形態ではなく様々なタイプが存在することを明らかにした。次に、一般農家以外の研修である公共的な研修農場での研修と比較することによって、一般農家における研修と公共的な研修農場での研修との技術習得の方法の違いを明らかにした。